

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

コロサイ4:3

## 2015(27)年 週 報

5月 3日  
第1聖日  
第3402号

聖  
言

「キリスト・イエス四人」

こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの四人となった私パウロから言います。エペソ3:1

礼拝の恵み 第二〇章  
第八部 礼拝の障害  
第三節 批評的精神  
他人の場合にはけちであるものが自分の場合には健全財政となる。他人の場合には二枚舌が自分の場合には外交辞令となる。集会のうちの一員だけがこのような誹謗的精神に憑かれていてる場合にも。たしかに感心しないが、集会全員がもしこうした感情に支配されている場合は言語同断である。そのような環境からは礼拝などは決しておこなわれない。聖書に「気をつけるがよい。もし互いにかみ合い、食い合っているなら、あなたがたは互いにほろぼされガラまうだろう。」(ガラテヤ五ノ一五)とある。こうした誹謗精神が腐蝕材として作用して、個人にせよ、靈性を食い尽くしてしまう。  
コラとその仲間たちが、たしかに嫉みから、モーセとアロンちかづいて訴えたのも、この誹謗精神であった。「あなたがたは、分を越えています。全会衆は、ことごとく聖なるものであって、主がそのうちにおられるのに、どうしてあなたがたは、主の会衆の上に立つのですか。」コラとその仲間とのこの言動を神がどう考えられたか、神はそれをイスラエルの人々に明示したもうた。神は不平者全部を滅ぼしてしまわれた(民数一六章をみられよ)。コレラの事は「わたしたちの教えのために書かれたものであって」(ローマ一五ノ四)、われらすべての心に、誹謗的精神が悪いものであることを声高く語る。  
(礼拝ギブス)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年四月二六」日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「キリスト・イエスの囚人」

一

「霊に属する者」 午後二時 聖会 足達牧師  
「イザヤの聖潔」 午後七時 聖会 西田牧師

「こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となった私パウロから言います。」(エペソ三ノ一)

二〇一五年四月二九日午後七時 祈祷会 山本牧師

「エジプトに対する宣告④」(エゼキエル連講五一回)

「わたしがエジプトの国を荒れ果てさせ、この国にある物がみなはぎ取られ、私がその住民をみな打ち破るとき、彼らはわたしの主であることを知ろう。」(エゼキエル三二ノ十五)

① 捕らえられ鳥の餌食とされた川の中の竜(三二ノ一〜一六)

② よみで刺し殺された無割礼の者と共に横たわる(一七〜三二)

三二章はエジプトについての第六と七の預言である。イスラエルにとってはエジプトは長年密接な関係であった。先祖ヨセフ、モーセは勿論、ソロモンは王の娘を妻に迎え入れエゼキエルの時代にも昔の超大国エジプトか新興超大国バビロンに援助を求め、国家は揺れ動いていた。そこに人間に助けを求めることが以下に空しいかを示すためにエジプトの末路を預言した。「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびとで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。」(マタイ六ノ一九、二〇)。

ペンテコステ(聖霊降臨聖会)

日時 五月四日(月)

「聖霊の時代」 午前一〇時 聖会 山本牧師

二二日(金) 大日丘集会 午後五時

説教者リトリート(修養会)計画

場所 御受難修道女会 阪急宝塚線完布神社駅下車徒歩五分

「リントの信徒への手紙」第4章1節から第6章13節までに聴き

つつ

日時 五月一七日午後六時〜一九日午後三時

講師 加藤常昭先生は鎌倉雪ノ下教会牧師をされ現在日本基督教

団隠退教師

パウロと私

5月17日(日)

午後7時〜午後9時30分

第4章1〜6節 黙想 加藤常昭

6月18日(月)

午前9時〜午前10時30分

第4章7〜18節 黙想 加藤常昭

午前10時5分〜正午

グループ 自由な分かち合いと祈り

午後3時―午後6時

第5章1―10節 黙想 加藤常昭

午後7時―午後9時30分

第5章11―21節 黙想 加藤常昭

5月19日(火)

午前9時―午前10時30分

第6章1―13節 黙想 加藤常昭

午前10時45分―正午

グループ

午後1時―午後3時

全員の分かち合いと祈り

①第2日、第3日、朝食前の祈りはありません。各自自由に用いてください。

②黙想は、場合によっては語り合いの時間を作ります。

③参加者はあらかじめ指定されている聖書テキストと向き合い、黙想を重ねてきてください。